

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2年	国語	論理国語	特進	2	小平
教科書	数研出版「論理国語」				
副教材	『708論理国語準拠ワーク』(数研出版), 『入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500三訂版』(いいずな書店), 『イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版』(いいずな書店), 『評論速読トレーニング1500』(数研出版)				
評価基準	観点① 知識・技能 ・漢字の書き取り・読み取り、語句の知識が身についている。 ・文章構成の理解する(文や文章の効果的な組み立てや接続の仕方の理解)。 ・情報の扱い方を理解する(情報の重要度による整理、推論)。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・文章を的確に理解し、自分の考えを深め、他者に伝えられる表現力。 ・文脈を捉え、自分の知識を踏まえて文意を理解しようとする。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・授業を聞き、与えられた課題、自分で発見した課題に取り組み、ノートの内容を工夫する。 ・グループワークやペアワークに積極的に参加して、他者と協働して問題解決を図ろうとする。 ・ワーク等の提出物をしっかりと管理し、成果物を提出する。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 漢字の書き取り等、語句等の知識、選択肢(接続語、段落相互の関係、傍線部前後からの文脈・文意の読み取り、同値・逆接等の把握、等)				
	観点② 演習問題・記述式 (内容理解、主張の把握、傍線部・文の言い換え、適語・適文の抜き出し脱文補充等)				
	観点③ ①予習②感想・まとめ ③課題(小テスト) ④授業姿勢(各5点)				
授業のねらい・進め方・注意点	文章を自力で正しく読解する力を養っていくことを主眼とする。教科書を主に用いて、様々な文章を読み、教養や知識を深めていく。抽象的な概念の理解やそれに対応する具体例を自分の力で考えながら読解することができる力を身に着ける。語彙力を強化するために漢字テストを適宜実施する。また自分の考えを他者に伝え、また他者の考えを理解するためにもペアワーク等には積極的な姿勢で臨むことを期待する。スケールテストやその先で求められる学力を身に着けていく。				
家庭学習	学習内容と進め方	漢字『TOP2500』～P175(第二章重要語ランクCまで)を2周する。			
	学習の目安時間・分量	毎週書き取り4ページ分(読み取りの場合は8ページ分)を範囲として学習する。			
	学習状況の確認方法	毎週小テストを実施。また、定期考查において、教科書の文章内で該当する語や漢字について問いを設ける。			
	成績評価との関係	主に観点③の点数として評価するが、観点②における内容理解等にも反映され評価に影響する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	・必要な資料を読み、図書室を利用し内容理解の一助とする。 ・関心のある領域の新書等を積極的に読む。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	「手の変幻」	「弱いつながり」 ※漢字TOP2500 P 124~P 151 中間考査 『『内的成長社会』へ』 「胆力について」 ※漢字TOP2500P152~175 期末考査 ・逆説的表現の理解 ・近代の概念の理解 ・その他入試過去問演習
	5		
	6		
2	7		
		「国境を超える言葉」	「未来世代への責任」 中間考査 「日本語は非論理的か」 「白紙」 ・言語論の理解 ・その他入試問題演習
		「未来世代への責任」	
	中間考査		
3			
		「『安楽』への全体主義」	近代の概念を理解する

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	保健体育	保健	特進理系	1	保健体育科
教科書	現代高等保健体育（大修館）				
副教材	現代高等保健体育ノート（大修館）				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書・副教材を正確に理解し、答えることができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 観点①で習得したことを元にグループ内活動やその他取り組みにおいて、生かすことができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業内活動において積極的に発言することができる。				
考査	1学期期末・2学期期末・学年末の計3回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①期末50x80% + 観点②期末50x80% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 授業内で取り組んだ基本的内容を基にした問題				
	観点② 授業内で活用した統計データやグラフから読み取る問題				
	観点③ ノートの取り組み及び提出状況（その他プリント含）レポート提出				
授業のねらい・進め方・注意点	○環境問題において知識理解を深めるとともに今後の生活の中で学んだことを理解して日々の生活に生かせるようにする。 ○教科書・ノートを中心に授業を行い、プリントやビデオ等の教材も使用する。授業内容によって自宅学習をすることもある。 ○テストについては各学期末に行う。 ○各学期にノートの確認を行う。				
家庭学習	学習内容と進め方	右記、授業計画の内容をもとに授業を実施する。分からない内容があれば、各自で復習すること。			
	学習の目安時間・分量	教科書やノートの内容を理解するまで。			
	学習状況の確認方法	定期考査もしくは授業内でノートの提出。 ※担当者からの指示を確認すること。			
	成績評価との関係	観点3			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	必要があれば提示	3単元 01.ライフステージと健康 02.思春期と健康 03.性意識と性行動の選択 04.妊娠・出産と健康 05.避妊法と人工妊娠中絶 06.結婚生活と健康 ◎ノート提出 ☆期末考査
	5		
	6		
2	7	必要があれば提示	4単元 01.大気汚染と健康 02.水質汚濁・土壌汚染と健康 03.環境と健康にかかわる対策 04.ごみの処理と上下水道の整備 05.食品の安全性 06.食品衛生に関わる活動 ◎ノート提出 ☆期末考査
	9		
	10		
	11		
3	12	必要があれば提示	2単元 01.事故の現状と発生要因 02.安全な社会の形成 03.交通における安全 04.応急手当の意義とその基本 05.日常的な応急手当 06.心肺蘇生法 ◎ノート提出 ☆期末考査
	1		
	2		
	3		

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	保健体育	体育	特進理系	3	保健体育科
教科書					
副教材					
評価基準	観点① 知識・技能 ・授業内で学んだ技能を実技テストにて評価				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・技能の行い方や組合せ方について、自己や仲間と良い点や修正点を指摘し合いながら互いに新たな課題を発見しているとともに技能を表現しようとしている				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・技術練習やゲームの経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、他者と協調性を大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。課題を提示し評価する。				
考查	実技テストを授業内で行う				
評価	観点①60点、観点②20点、観点③20点=100点満点で評価				
テスト・評価の内訳	観点①	体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける ※1学期は新体力テストが加わる ※3学期はシャトルランおよびマラソン大会、時間走で評価			
	観点②	観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける			
	観点③	観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける			
授業のねらい・進め方・注意点	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。また、授業内での安全確保（感染症対策も含む）にも留意し、生徒の健全な授業環境の確保に努める。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業内で実施した内容をもとに、実技動画を調べたうえで各自視聴し、次回授業に生かすようにすること。			
	学習の目安時間・分量	それぞれの技能に応じる。			
	学習状況の確認方法	実技テストでの評価			
	成績評価との関係	観点別評価の内訳に準じる			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4 5 6 7	必要があれば提示	○オリエンテーション ※新学期・実技指導・内容説明 ○新体力テスト
			【グラウンド種目】ラグビーフットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
			【体育館種目】バレーボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
			【ダンス】 ・内容説明、基礎動作・振り付け指導 ※実技テストも行う。
			【柔道】 ・実技指導、内容説明、受身・寝技 ※実技テストも行う。
2	9 10 11 12	必要があれば提示	【グラウンド種目】サッカー ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
			【体育館種目】バスケットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
			【ダンス】 ・創作ダンス、振り付け指導 ※実技テストも行う。
			【柔道】 ・実技指導、立技 ※実技テストも行う。
3	1 2 3	必要があれば提示	【グラウンド・体育館・柔道】 持久走
			【ダンス】 ・3年次体育祭ダンス発表振り付け指導 ※実技テストも行う。

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	家庭	家庭基礎	特進文系	2	矢部・青柳
教科書	ウェルビーイングにつなぐ家庭基礎 教育図書				
副教材	家庭科55デジタル＋資料集＋食品図鑑＋デジタルコンテンツ 教育図書				
評価基準	観点① 知識・技能 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識を習得するとともに、それらに係る技能を身に付けられたか。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだし、課題設定、解決策の構想、実践の評価・改善等、生涯を見通して課題を解決する力が養われたか。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとする気持ちを育むとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度が養われたか。				
考查	1学期期末・2学期期末・学年末の計3回実施 上記考查(実技含む) 全て、観点①45点＋観点②45点＋観点③10点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2・3学期:観点①(筆記35点+実技10点)＋観点②(筆記35点+実技10点)＋観点③ 10点 ※実技課題は学期によって異なるものが出題される。				
テスト・評価の内訳	観点① 筆記点(教科書、資料集、プリント等から出題)、実技点(野菜の切り方テスト等)				
	観点② 筆記点(教科書、資料集、プリント等から出題)、実技点(作品等)				
	観点③ ロールプレイング発表、課題・レポート提出等				
授業のねらい・進め方・注意点	家庭科では、生涯を通してよりよく生きるために必要な知識・技能を習得し活用できる力の育成と社会の構築に向けて主体的に生活を創造する力の育成を目指しています。 生徒一人ひとりが自ら生活をつくる主体であることを実感できるように、様々な分野に着目しながら授業を展開したいと考えています。				
家庭学習	学習内容と進め方	教科書の特性として、毎日の生活での経験や体験(自分が日々感じていること)が学びにつながる。日頃の興味・関心・疑問はその都度、消化・解決しながら過ごしてほしい。			
	学習の目安時間・分量	卒業後、自立して生活するには特に衣・食・住に関しては、他者に助けを求めず、自力で解決することが大切である。そのためには繰り返し経験を積むことが望ましい。			
	学習状況の確認方法	生活の中で困難な場面に遭遇した時に、習得した知識・技術が発揮できれば良いと考える。			
	成績評価との関係				
図書資料の活用等・探究へのつながり	・暮らしの手帖 ・栄養と料理				

授業の計画

学期	月	教材(教科書)	内容
1	4月	生涯の生活設計	・人は一生発達する ・これからのライフイベント ・人生の課題を解決しよう ・自立への一歩を踏み出そう ・家族 家庭とは？ ※冊子(お部屋探し&一人暮らしガイド)使用
	5月	青年期の自立と家族・家庭	
	6月	住生活と住環境	・住まいの役割 ・平面図の読み方 ・これからの快適な暮らし方 ※冊子(お部屋探し&一人暮らしガイド)使用
	7月	子どもの生活と保育	・子どもの成長の特徴 ・調理実習(幼児のおやつ) ・親の役割と子どもの生活習慣
		期末考查 作品提出	
2	9月	高齢期の生活と福祉	・高齢者の心身の変化 ・高齢化の現状と課題
	10月	食生活と健康①	・生活習慣と食事 ・現代の食事
	11月	実技テスト (野菜の切り方テスト) 食生活と健康②	・栄養素の分類と食品 ・食品の選び方(加工食品の表示) ・調理実習(郷土料理) ・テーブルマナーを知る
	12月	食生活と健康③	・調理実習(クリスマスケーキ) ・食文化を継承しよう
		期末考查	
3	1月	消費生活と経済計画①	・消費者と意思決定 ・契約の重要性 ・多様化する支払方法と返済方法
	2月	消費生活と経済計画②	・さまざまな消費者問題 ・消費者を守るしくみ
	3月	グループ発表・課題提出 学年末考查	・消費者の権利と責任 ・消費生活と経済のつながり

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	数学	数学Ⅱ	特進理系	4	黒滝
教科書	数研出版 数学Ⅱおよび数学Ⅲ				
副教材	サクシード 数学Ⅱおよび数学Ⅲ				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <p>数学における基本的な概念や性質（剰余の定理、加法定理、対数・導関数の定義等）を、その成り立ちや原理と共に体系的に理解している。また、計算技法（微分・積分等）を習熟し、それらを問題の状況に応じて正確かつ適切に活用することができる。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <p>基礎的な原理を根拠として、公式や性質を自ら論理的に導き出す（再構成する）力。既習の数学的プロセスを抽象化して捉え、初見の事象や未知の問題に対して、どの原理を適用すべきかを判断し、解決に向けて論理を構築・表現する力。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>数学的原理や論理の流れを深く理解しようと、多角的に検証しようとする姿勢。解決の糸口が見えない問題に対しても、既習の知識を総動員して仮説を立て、粘り強く試行錯誤（アプローチ）を繰り返しながら、自身の学習過程を振り返り改善しようとする態度。</p>				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	定期考查ごとにテスト100点、観点③10点を加算し、満点に対して取得した点数の割合で評価する。				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書例題レベル、サクシードA問題レベルの基本的な問題を50点分出題。				
	観点② 教科書応用例題レベル、サクシードB問題、重要問題レベルを50点分出題。				
	観点③ 小テストの成績および日々の課題の提出状況で評価する。				
授業のねらい・進め方・注意点	復習を中心に行い、基本的な事項の理解、そしてそれが再現できることを目標にしてほしい。数学Ⅱで学習する内容は、その後の数学Ⅲの学習に繋がる内容が多く非常に重要である。また、サクシードの重要例題や、可能な範囲で模試の過去問、大学入試問題などの応用的な問題にも触れるので、そういった学びを通して応用力もつけていただきたい。数学ⅠAでの既習事項が必要になる場合には、可能な範囲で復習することもあるが限界もある。参考書学習などにより、各自で補ってもらえることが望ましい。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業で扱った関連問題を提示するので、サクシードなどを用いてその日の授業で扱った内容を復習してほしい。			
	学習の目安時間・分量	1回の授業につき復習の時間が90分程度かかるとして、週6時間～7時間程度。あくまでも単元に応じて変化するものであり、自分ができるようになるために必要な学習時間を確保するよう努めること。			
	学習状況の確認方法	小テストの結果や課題の取り組みによって確認する。			
	成績評価との関係	観点③の成績の一部として評価する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	「数学ガール」シリーズは数学に関する様々な事柄についてまとまっている書籍なので、読んでみるとよい。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	数研出版 数学Ⅱ ノート サクシード 数学Ⅱ	第2章 複素数と方程式 第3章 三角関数
	5	補充プリント	
	6		
2	7		第5章 指数関数と対数関数 第6章 微分法と積分法
	9	数研出版 数学Ⅱ ノート サクシード 数学Ⅱ	
	10	補充プリント	
3	11		(以下、数学Ⅲ) 第1章 関数 第2章 極限
	12		
	1	数研出版 数学Ⅲ ノート サクシード 数学Ⅲ	
2	2	補充プリント	
	3		

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	数学	数学B	特進	2	駒崎
教科書	数研出版数学B・数学C				
副教材	サクシード数学IIBC（ベクトル）				
評価基準	観点① 知識・技能 問題を解くための最低限の知識（基本的数列・シグマ記号の扱い・数学的帰納法の原理・漸化式・ベクトルの加減実数倍・基底による表示の一意性・内積etc）をその原理とともに理解し、反復によって定着させ、適切なタイミングでそれらを利用できる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ①に上げたような最低限の知識が拠り所とする数学的原理について理解し、原理からそれらを導く力。数少ない原理から教科書に記載されているような最低限の知識を導く過程を学ぶことでそれらを体得し、未知の問題にその過程を応用する力。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ①②で見られる最低限の知識やその基盤となる数学的原理、またそれらを繋ぐための考え方・論理の流れを理解するために自分自身で具体例を挙げようとする態度。未知の問題に対して自身が使えるような知識を列挙し、解決を試みようとする態度。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	定期考査ごとにテスト100点、観点③10点を加算し、満点に対して取得した点数の割合で評価する。				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書例題レベル、サクシードA問題レベルの基本的な問題を50点分出題。				
	観点② 教科書応用例題レベル、サクシードB問題、重要問題レベルを50点分出題。				
	観点③ 小テストの成績および日々の課題の提出状況で評価する。				
授業のねらい・進め方・注意点	数列とベクトルという抽象度の高い概念を学習します。特にベクトルは、この概念を中心として数II「図形と方程式」数C「複素数平面」を考えることができる強力な道具です。数列では具体的に書き出して観察する姿勢、ベクトルでは「基本的な移動を組み合わせれば全ての移動が再現できる」という基本理念のもと学習する姿勢が重要です。ノートは板書を写すことに留まらず、自身の考えも残しながら取ることで理解度を上げることが出来ます。家庭学習に関しては下記を参照してください。				
家庭学習	学習内容と進め方	ノートを見て、概念の理解をする。数学特有の言葉遣い＝定義と、数学特有の考え方＝論理の2つを、具体例を通して自分のものにする。その後例題演習に移る。式だけでなく、式同士をつなげる考え方まで確認する。その後、問題集や参考書で類題演習等に移る。			
	学習の目安時間・分量	週15時間を家庭での数学の授業に充てるとして、特に数学Bの内容には週4~5時間程度は割いてほしいので、それを想定した課題を用意します。			
	学習状況の確認方法	課題の提出等			
	成績評価との関係	観点③に含む。そもそも日頃の学習が試験結果に直結する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書 参考書 ノート	数列とは 基本的数列の扱い シグマ記号 数列を式で説明するのが漸化式 数学的帰納法
	5	サクシード	
	6		
	7		
2		教科書 参考書 ノート サクシード	ベクトルを点の移動としてイメージする ベクトルの和・差 ベクトルの拡大縮小＝実数倍 ベクトルを具体的に説明したものが成分表示 基本的な移動の方向＝基底 平面の基底は2つで良い 内積の計算 ベクトル方程式は軌跡のベクトル版
3		教科書 参考書 ノート サクシード	空間ベクトルも点の移動 成分表示は3つになる 基底も3つ必要 空間の方程式を得るのはベクトルが便利

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	数学	数学選択	特進理系	2	花澤
教科書	数研出版 数学IIおよび数学C				
副教材	サクシード数学IIBC（ベクトル）・サクシード数学IIIC（複素数平面と二次曲線）				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <p>問題を解くための最低限の知識（等式不等式の証明方法・相加平均と相乗平均の関係・xy平面上の図形の式・軌跡を得るための同値変形・極形式etc）をその原理とともに理解し、反復によって定着させ、適切なタイミングでそれらを利用できる。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <p>①に上げたような最低限の知識が拠り所とする数学的原理について理解し、原理からそれらを導く力。数少ない原理から教科書に記載されているような最低限の知識を導く過程を学ぶことでそれらを体得し、未知の問題にその過程を応用する力。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>①②で見られる最低限の知識やその基盤となる数学的原理、またそれらを繋ぐための考え方、論理の流れを理解するために自分自身で具体例を挙げようとする態度。未知の問題に対して自身が使えるような知識を列挙し、解決を試みようとする態度。</p>				
	<p>①②で見られる最低限の知識やその基盤となる数学的原理、またそれらを繋ぐための考え方、論理の流れを理解するために自分自身で具体例を挙げようとする態度。未知の問題に対して自身が使えるような知識を列挙し、解決を試みようとする態度。</p>				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	定期考查ごとにテスト100点、観点③10点を加算し、満点に対して取得した点数の割合で評価する。				
テスト・評価の内訳	<p>観点①</p> <p>教科書の例・例題・練習、サクシード重要例題・Aレベルの問題 50点</p>				
	<p>観点②</p> <p>教科書の応用例題・発展・補充問題、サクシードBレベル・発展レベルの問題 50点</p>				
	<p>観点③</p> <p>授業への取り組み、課題(自宅学習)への取り組み 20点</p>				
授業のねらい・進め方・注意点	<p>・この授業で扱う証明や軌跡などの概念を明確に理解するには、数学Iで学習した論理を完璧に理解しておく必要があります。「必要条件」「十分条件」「同値」などの言葉の意味が怪しいものは早い段階で復習しておくこと。</p> <p>・特に図形と方程式や複素数平面は、数学Bで学習するベクトルとの相性が素晴らしく良いです。ベクトルを完璧に理解しておくことは大きなアドバンテージになります。</p> <p>・おすすめ参考書→「数学の真髄 論理・写像」「数学の真髄 ベクトル」</p> <p>・週2単位でかなり重たい内容をやるため、必ず下記を参考にして復習すること。</p>				
家庭学習	学習内容と進め方	ノートを見て、概念の理解をする。数学特有の言葉遣い＝定義と、数学特有の考え方＝論理の2つを、具体例を通して自分のものにする。その後例題演習に移る。式だけでなく、式同士をつなげる考え方まで確認する。その後、問題集や参考書で類題演習等に移る。			
	学習の目安時間・分量	週15時間を家庭での数学の授業に充てるとして、特に数学選択の内容には週4~5時間程度は割いてほしいので、それを想定した課題を用意します。			
	学習状況の確認方法	課題の提出、自主学習用フォーム提出			
	成績評価との関係	観点③に含む。そもそも日頃の学習が試験結果に直結する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	・ルネ=ド=マル「類推の山」				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	数学II教科書	式変形：3次式の展開と因数分解・二項定理・分数式・除法の原理
	5		等式と不等式の証明：A-Bの計算結果が0（正）になる・恒等式・多項式として一致する・相加平均と相乗平均の関係
	6		
2	7	数学C教科書	xy平面における直線の式
	9		xy平面における円の式
	10		
	11		
12	軌跡・領域 ・条件を満たす(x,y)を集める		
3	1	複素数平面の各種操作	<ul style="list-style-type: none"> ・極形式 ・共役複素数 ・1のn乗根と正n角形
	2		
	3		

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	理科	理選物理	特進理系	4	齋藤広
教科書	物理基礎（物基703）実教出版 物理（物理702）実教出版				
副教材	エクセル物理 総合版 物理基礎+物理（実教出版）				
評価基準	<p>観点① 知識・技能 単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解できる。 公式を使って、基本的な問題を解き、物理量を求めることができる。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力 実験等によって得られた情報を整理・分析し、法則性や関係する物理量を求めることができる。また、得られた知識を使って応用的な課題を解決できる。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業や課題に真剣に取り組む、知識や思考力等の成長のために努力できる。 また、学習した内容と日常生活との関わりなどについて調べたり考えることができる。</p>				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 基本的な問題・語句等の知識問題				
	観点② 応用問題				
	観点③ 提出物・レポート・小テスト・普段の取り組み				
授業のねらい・進め方・注意点	物理を選択した人は、基本的には大学受験科目として物理を選択するであろうということを前提として、大学進学に向けて必要な最低限度の知識と技法を身につけることを目標として授業を行います。 クラスの様子を見て、適宜進度を変えて授業を行う可能性があります。				
家庭学習	学習内容と進め方	「エクセル物理」を進める。 教科書や授業資料を振り返る。自分に合った参考書に取り組むことを推奨する。			
	学習の目安時間・分量	毎日1時間以上の学習が望ましい。			
	学習状況の確認方法	課題の提出状況や定期考査などで確認。			
	成績評価との関係	観点③の評価に加える			
図書資料の活用等・探究へのつながり	レポートの作成や、大学過去問の演習の際に活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容	
1	4	物理基礎1章1節	速度と加速度	
		運動の表し方	等加速度運動と落体の運動	
	5	物理1章1節 平面内の運動	放物運動	
		物理基礎1章2節 力	力のつりあいと作用反作用	
	6	物理1章1節 剛体	剛体にはたらく力	
		物理基礎1章3節	慣性の法則	
	7	運動の法則	運動の法則と運動方程式の活用	
2	9	物理基礎2章1節	仕事と力学的エネルギー	
		運動とエネルギー	力学的エネルギー保存	
	10	物理1章2節 運動量の保存	運動量と力積	
		物理基礎2章1節	運動量の保存	
	11	物理基礎2章1節	衝突とエネルギー	
		熱とエネルギー	熱と温度、熱と仕事	
	12	物理1章5節	比熱と熱容量	
		気体分子の運動	気体の状態方程式	
	3	1	物理基礎3章1節 波の性質	波の性質と波の表し方
			物理2章1節 波の伝わり方	重ね合わせの原理
		2	物理基礎3章2節 音	音波と発音体の振動
			物理2章2節 音	音の伝わり方とドップラー効果
3		物理2章3節光	光の伝わり方とその性質	
			光の回折と干渉	
		レンズ		

2026年度

学年	教科	科目	単位	担当者
2	理科	生物基礎・生物	5	岡田
教科書	第一学習社 生物基礎 ・ 第一学習社 生物			
副教材	第一学習社 新課程二訂版 スクエア最新図説生物			
評価基準	観点① 知識・技能 教科書および図説の内容の十分な理解を目指す。			
	観点② 思考力・判断力・表現力 内容の理解を目指す過程で、教科書以外の資料を多く取り入れる。			
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 学習内容に関する課題図書のサマリーを作成する。			
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。			
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10			
テスト・ 評価の 内訳	観点① 用語の意味を問うような、単純な知識問題が大部分となる。			
	観点② 文脈を正しく読み解く必要があるような、考察を要する問題が大部分となる。			
	観点③ サマリーの内容を元に判断する。			
授業の ねらい・ 進め方・ 注意点	学習者...学習項目の理解にどれほど自分自身の思考を巡らせたか?に注目する。 授業者...学習者の思考がより深いものになるように注力する。			
家庭学 習	学習内容 と進め方	授業内容を再現する。 家庭学習用のプリントを解答する。		
	学習の目 安時間・ 分量	各自で判断する。		
	学習状況 の確認方 法	不定期。 授業者の求めに応じ、都度、提出の準備をしておく。		
	成績評価 との関係	家庭学習を評価に入れることはしないが、適切に実行していないと、定期考查に 響くことを自覚する。		
図書資料の活 用等・探究へ のつながり	特になし			

授業の計画

学期	月	教材・内容	課題図書
1	4	生物基礎 第3章 ヒトのからだの調節	4月～5月 https://bookclub.kodansha.co.jp/product/item=0000226674
	5		6月～7月 https://bookclub.kodansha.co.jp/product/item=0000275712
	6		
2	9	生物基礎 第5章 生態系とその保全	9月～11月 https://bookclub.kodansha.co.jp/product/item=0000369798
	10	生物基礎 第4章 植生と遷移	
	11	生物 第1章 生物の進化	12月～2月 https://bookclub.kodansha.co.jp/product/item=0000194598
	12	生物 第2章 生物の系統と進化	
3	1		
	2		
	3		

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	理科	化学基礎	特進理系	4	齋藤
教科書	実教出版 化学基礎academia 化学academia				
副教材	セミナー化学基礎+化学				
評価基準	観点① 知識・技能 語句 単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解する。 技能 実験の際に、適切に器具を使用し、実験のねらいを果たす。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 問い 単元ごとの代表的な問いについて学ぶことで、科学的な見地を手に入れる。 意見 状況に応じた理論の活用を行い、自分自身の意見を形づくる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 意欲 自分で必要だと思ったことを実施し、語句の修得のための努力を重ねる。 関心 修得した理論の歴史や社会的意義を、調べたり考察したりする。				
	考査 1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する				
	1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① セミナー化学基礎+化学における基礎知識 授業中に扱った基礎知識				
	観点② 単元における発展的な内容				
	観点③ 提出物				
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業のすべてが授業者による内容の解説にならないように配慮する。 ・ 知識の詰め込みではなく、日常生活でも論理的思考が出来るように促す。 ・ 毎授業の終わりに、学習の自己調整についての考えを整理する時間をつくる。 ※授業中の教員の話は、重要なことが多いのでしっかり聞くこと。				
家庭学習	学習内容と進め方	問題集「セミナー化学基礎+化学」をテスト前だけでなく普段から授業で学習した箇所を随時復習として解くこと。また、完全に解け、解説できるまでやりきること。			
	学習の目安時間・分量	テスト前に一気にまとめていると週6時間の授業なので間に合わない。毎回の授業をその日のうちに簡単でも良いので復習するよう心掛けること。定期考査日(指定日)に教科担当者に提出。			
	学習状況の確認方法	定期考査日(指定日)に教科担当者に提出。			
	成績評価との関係	観点③の評価に加える			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

※授業の進度により変更することがあります。

学期	月	教材	内容
1	4	化学基礎	分子からなる物質の性質を理解する。 金属原子間の結合及び金属からなる物質の性質を理解する。 原子量・分子量・式量などの物質量の基本事項を学ぶ。 水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係およびpHについて理解する。
		2章	
		2節 共有結合と分子間力	
		3節 金属結合	
		4節 化学結合と物質	
		5章	
		1節 物質と化学反応式	
2	9	2節 酸と塩基	中和滴定と滴定曲線により、中和反応を理解する。
		10	
3	1	化学	酸化・還元の定義を理解し、酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。 酸化剤と還元剤の反応と実用電池の形成の関係を理解する。 酸化還元反応と日常生活や社会生活との関わりについて理解する。
		第1章 物質の状態と平衡	
		2 1節 状態変化	
3	1	2 2節 固体の構造	結晶格子の概念および結晶の構造を理解する。 気体の体積と圧力や温度との関係を理解する。
		3 3節 気体の性質	
		4 4節 溶液の性質	
		3 3節 気体の性質	

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	地歴	地理総合	特進理系	2	佐々木
教科書	【地総046-902】 帝国書院 『高校生の地理総合』 【地図046-901】 帝国書院 『新詳高等地図』				
副教材	帝国書院 『高校生の地理総合ノート』				
評価基準	観点① 知識・技能 基本的な知識を身に着け、その役割、有用性を理解しているか。地図、資料などから現代世界の姿を読み取る技能を身に着けているか。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 世界の国々はどのように結びついているのか、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかを、地図、資料を通して、多面的・多角的に考察し、表現しているか。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしているか。生活の中で必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追求し課題を見出しているか。				
	<p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。</p>				
考査	<p>各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10</p>				
評価	<p>観点① 授業で学んだ事柄について理解している。</p> <p>観点② 地図・資料、データなどから複数の根拠をもって問いに答えることができる。</p> <p>観点③ 社会に関心を持ち、時事問題などを自ら知る姿勢を持つ。 授業への姿勢や協同作業など自ら前向きに動くことができる。</p>				
テスト・評価の内訳	<p>(ねらい)世界各地の生活文化の多様性について、自然環境や社会環境とのかかわりに着目しながら考察し、国際理解を深めていく。また、地域的な視点から災害と防災についての課題を考察し、安心できる社会を構築するためにどう行動するかを考えていく。 (注意点)知識の習得にとどまるのではなく、様々な地球的課題の解決に向けて、その知識をどのように活かしていくのか、また、持続可能な社会の構築にどのような知識を身に着けたらよいかを考えながら、授業を受けてほしい。</p>				
授業のねらい・進め方・注意点	学習内容	社会情勢に関心を持ち、日々のニュースと教科書の中の事柄を結び付けて考えられるように、様々な情報に触れるよう心掛けてほしい。			
	学習の目安時間・分量	1日10分以上、新聞やテレビなどのニュースに触れる時間をとること。ネットニュースだけでなく、オールドメディアなどの媒体も活用すること。			
	学習状況の確認方法	時事ニュースに関して不定期に小テストを行う。また、時事ニュースに関するレポートを長期休暇の課題として課す。			
家庭学習	成績評価との関係	提出物、課題、小テストは観点③として評価する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	新聞記事に関するレポート提出を課す。 図書資料の紹介を行う。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4月	地球儀と地図	地球上の位置と地上の現象 経度の違いと時差
	5月	地図と地理情報システム	球体と平面の世界 地図の種類 地理情報システムの利用
		現代世界の国家と領域 中間考査	国家の領域と国境 地図からみる日本の位置と領域
	6月	地図からみる国内や国家間の結びつき	国際機関・貿易・交通通信・観光
	7月	世界の地形と人々の生活 期末考査	生活と地形のかかわり 河川・海岸の地形 氷河・カルスト地形・乾燥地形
		2	9月
2	10月	世界の産業と人々の生活 世界の言語・宗教 中間考査	農業・工業 言語・宗教の多様性
	11月	生活文化の多様性と地理的環境 東南アジア ヨーロッパ	季節風と生活文化 伝統の継承と生活文化
	12月	期末考査	
		3	1月
3	2月		気象災害と防災 自然災害への備え
	3月	学年末考査	

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
	英語	EC II	特進	4	山浦
教科書	FLEX English Communication II (増進堂)				
副教材	大学入試 英語長文読解問題集 Vertex Level 3 リンケージ英語構文 (旺文社)				
評価基準	観点① 知識・技能 長文：扱った長文の表現をoutputできる、文章展開のキーワードがわかる 構文：基本例文で扱った事項をもとに、構文の役割および日本語訳ができる				
	観点② 思考力・判断力・表現力 長文：各パラグラフのTopic Sentenceを見極める、Summary & Opinionが言える 構文：整序英作文および英作文ができる				
	入試問題：授業で習ったことを入試問題で応用できるかどうかをチェックする				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 英語アプリ レシピの取り組み 暗唱/筆記テスト (リンケージ英語構文の基本例文)				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① Target1900、リンケージより出題				
	観点② Vertex、初見長文問題、リンケージ応用問題				
	観点③ 英語アプリ レシピの取り組み 授業内実施の単語テストの取り組み				
授業のねらい・進め方・注意点	文構造をしっかりと理解する。(品詞分解) 段落構造を理解する。 読解スピードを意識する。				
家庭学習	学習内容と進め方	レシピで配信されたものを取り組む その他授業中に出される課題			
	学習の目安時間・分量	各セクション1時間程度			
	学習状況の確認方法	レシピ内で確認可能			
	成績評価との関係	観点③に加味する			
図書資料の活用等・探究へのつながり	必要に応じて各自で活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4		Vertexは左記の進め方
	5	【1学期中間】 Vertex Unit 1-3 リンケージ 7-23 中間考查	リンケージ英語構文は、1考查ごとに1章分進めていく 考查ごとに入試問題も扱う
	6 7	【1学期期末】 Vertex Unit 4-7 リンケージ 24-43 期末考查	
2	9		同上
	10	【2学期中間】 Vertex Unit 8-10 リンケージ 44-60	
	11	中間考查	
	12	【2学期期末】 Vertex Unit 11-14 リンケージ 61-80 期末考查	
3	1		同上
	2		
	3	【学年末】 Vertex Unit 15-18 リンケージ 81-100 学年末考查	

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	外国語	論理・表現II	特進	2	猪瀬
教科書	FACTBOOK English Logic and Expression II (桐原書店)				
副教材	英文法[強化]演習New Frame 650 New Edition (同上・別冊Mastering Aid付) Bright Stage 英文法・語法問題				
評価基準	観点① 知識・技能 ・ New Frame で基本項目を習得し、Exercise問題を正しく解ける				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・ New Frame対応項目のBright Stage問題を、①を元に正しく解ける				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・ Bright Stage確認テストに、積極的に取り組んでいる				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① Bright Stage熟語問題、New Frameで解いた問題をそのまま出題する。				
	観点② New Frameの改題、初見応用問題を出題する。				
	観点③ 授業内確認テストへの取り組み状況。				
授業のねらい・進め方・注意点	3段階で進める。授業時数が少ないので、予習が多くなる。 ①New Frame各章最初のFramesを各自で解き、Mastering Aidで確認する。 ②New FrameのExercisesを解く。解答解説は授業内で行う。 ③授業時に、Bright Stageで確認テストを行う。				
家庭学習	学習内容と進め方	指示された予習はもちろんのこと、復習に積極的に取り組む。復習の一環として各章最初のFramesを音読する。なぜその選択肢が正解なのか自分で解説しながら解く。New Frameだけでなく、Bright Stageの該当箇所を最低3回は解く。			
	学習の目安時間・分量	最低でも30分程度は実施。授業当日・週末・考査前など、内容を忘れそうになった頃に復習を繰り返すことが望ましい。			
	学習状況の確認方法	確認テストを適宜実施。また、定期考査で定着度を測る。			
	成績評価との関係	観点③の評価に加える。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	必要に応じて各自で活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	STEP 01 時制	★進度変更の場合は都度連絡します。 1学期中間考査 1学期期末考査
		STEP 02 態	
		STEP 03 助動詞	
		STEP 04 不定詞と動名詞	
	5	STEP 05 不定詞	
		STEP 06 動名詞	
		STEP 07 分詞	
		STEP 08 動詞の語法	
2	9	STEP 09 イディオム [動詞関連]	2学期中間考査 2学期期末考査
		STEP 10 仮定法	
		STEP 11 比較	
	10	STEP 12 代名詞	
		STEP 13 形容詞と副詞の語法	
	11	STEP 14 イディオム [形副関連]	
		STEP 15 会話表現①	
		STEP 16 関係詞	
		STEP 17 接続詞	
		STEP 18 疑問と否定	
		STEP 19 名詞と冠詞の語法	
3	1	STEP 20 イディオム[名詞関連]	
		STEP 21 前置詞と群前置詞	
	2	STEP 22 その他の重要文法事項	
3	STEP 23 会話表現②		
3	1	STEP 24 関係詞	学年末考査
		STEP 25 仮定法	
		STEP 26 比較	

二年次 総合的な探究の時間 シラバス

活動の指針	<p>二年次では、一年次に身につけた基礎をもとに、自らの興味・関心に基づく個人探究を行い、自身や学問分野への理解を深める。日常のゼミ活動や中間発表、最終発表会等で得たフィードバックを生かし、探究内容の深化を図る。三学期には、自身の進路につながる探究テーマを考える。</p> <p>一学期 自らの興味・関心に基づく個人探究のテーマ(課題)を設定する。 二学期② 探究成果発表会に向けて個人探究を進める。 三学期 自身の進路につながる探究テーマ(課題)を設定する。</p>
教材教具	<ul style="list-style-type: none"> □ iPad □ Benesseキャリアナビ・プログラム(オンライン) □ その他必要に応じて書籍など資料を紹介、配布する。
一学期	<p>自らの興味・関心に基づく個人探究のテーマを設定する。</p> <p>授業の流れ(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題設定の方法を確認する。 2. 自分の興味・関心に向き合う。 3. 図書資料を活用し、予備調査を行う。 4. 自分の興味・関心に基づき課題設定を行う。ゼミ活動を始める。 5. 情報収集の方法を知る・選ぶ。図書資料による文献調査は必ず行う。 6. 情報収集を行う。アンケート/インタビュー/実験/観察/現地調査を必ず行う。
夏休み	情報収集を継続する。スライドを作り始める。
二学期	<p>探究成果発表会に向けて個人探究を進める。ゼミ活動で内容を深化させる。</p> <p>授業の流れ(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 整理分析する。 2. まとめを行う。成果物作成の際は、参考・引用文献を必ず記載する。 3. 中間発表(スライド)を行い、フィードバックを得て振り返りを行う。 4. フィードバックを元に改善や、追加調査を行う。 5. 論文の作成方法を理解し、論文を作成する。 6. ゼミ内で論文を添削する。 7. 可能であれば、外部コンテストや発表会に挑戦する。

三学期	<p>探究成果発表会を行う。自身の進路につながる探究テーマ(課題)を考える。</p> <p>授業の流れ(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 探究成果発表会に向けてポスター作成を行う。 2. 3学期中に探究成果発表会を行う。 <p>【探究成果発表会について】 同学年・低学年生徒、教職員、保護者、大学教授等に向けて行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 発表会で得たフィードバックをもとに、論文を修正し、完成させる。 4. 自身の進路につながる探究テーマ(課題)を考える。
春休み	引き続き、自身の進路につながる探究テーマ(課題)を考え、三年次につなげる。

授業のねらい・注意点	
ねらい	探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、 自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する。
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びを行う。ゼミ活動を行いながら協働的に学ぶ。 ・自己を知り、社会を知り、将来につなげる。 ・記録を残し、成果物を作成する。

個人探究における「協働的に学ぶ」とは？	
<p>※二年次は個人での探究の機会が増えるが、ゼミ活動や発表などを通じた「協働的に学ぶ」機会があるので、その際には①～⑦を実践できるように心がける。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ゼミ内で、複数名のグループに分かれる。 ②協働的に学ぶ際の注意事項や評価指標を全員で確認しておく。 ③話し手は〇〇分で意見主張→聞き手は、質問や+αのアイデアを出す。 ④グループ内で③を繰り返し、多角的・多面的な視野や多様な価値観を得る。 ⑤話し手は、不足している視点を改善したり、追加で「情報収集」したりする。 ⑥改善した上で、また③～⑥を繰り返していく。 	
注意事項	評価指標
<p>個々の発言量・機会を均等にする。 質問やアイデアがあることを本人に伝える。 その際は、非難にならないように注意。 良いところも伝える。 会話の流れを記録し、さかのぼれるようにする。</p>	<p>協働的に学ぶ意義は、「物事を多面的に視る」という点である。個人探究においても、「気づき」を促すアドバイスを送り合い、他者の学びに貢献することが重要。</p>